チームで携わる仕事に就くために

本校4学科の学生たちが、卒業後に出ていく現場では、ほぼすべての場面においてチームによって仕事が進められます。ひとりの対象者の周りには、さまざまな仕事があります。たくさんの仕事の集合体によって、対象者の人生は支えられています。

そうした現場で活躍していくためには、チーム内における自らの仕事を確実に全うする力、チーム全体が進むべき方向を見定める力、チーム内の環境をより良い方へと導く力が求められると考えています。

そのため本校では、学生たちが、チーム・グループ内で行動する機会を、数多く設けています。新入生が入学して間もない時期に行う宿泊オリエンテーション、演習におけるグループワーク、各学科が科目によって取り入れているグループ学習などが、その一例です。

「チームとしての責任」を意識する

宿泊オリエンテーションは、全学科（1・2年生）合同で行われます。兵庫県三木市にある研修・宿泊施設において、「学習の方法」「実習における目標設定」などのテーマを設定し、学科別研修会を行います。学科・学年の異なる学生たちと教員が寝食を共にする環境のもとで、それぞれの職業像を具体的に描き、校風の理解、意欲の醸成などを図ります。日中に仕事をもつ夜間学生（理学療法学科）や、職業訓練生なども含めた全員が参加することを徹底しています。

また、主に実技の授業時に取り入れられるグループ学習では、チームで協力して課題に向き合い、解決方法を探していく学習に加えて、「チームとしての責任」を学生たちに意識させる機会を設ける工夫を行っています。

課題に対してふさわしいプランを導き出すことができなかった、施すべきケアに対して技術が足りていなかった。こうした問題は、時に個人の資質によることが少なくはありません。しかし、医療福祉の現場において、同じことが起きた場合には、当然ながらチームで対応していくことになります。責任をチームで引き受け、チームで対応するという習慣を、学生のうちから身につけてほしいと考えています。

そして、チームで行動するからこそ、自分自身の努力が大切であるという発想を、こうした学習のなかから導き出してほしいと思っています。

ひとりではないという意識

4学科の先にある職業は、いずれも、たくさんの人々の人生を支える仕事です。言い換えればそれは、相手に対して「あなたはひとりではない」というメッセージを、仕事を通じて伝え続ける仕事なのだと考えています。そのために、学生たち自身も、何かがあった時に助けてくれると信じられる仲間、もしくは進んで助けたいと思える仲間を、本校内で見つけてほしいと考えています。

大切にしていること ——仲間と共に

合同オリエンテーション時の理学療法学科の学生と教員たち。（上）喜び合い、肩をたたき合い、悔しさやつらさを共有し合う仲間の存在は、いつかそれぞれの現場で、頑張っていくための力になります。